TKU SUPER TAIKYU RACE in AUTOPOLIS

SUPER TAIKYU SERIES 2021 Powered by Hankook Round 4

カテゴリー　：スーパー耐久シリーズ 2021Powered by Hankook
　　ST-X クラス
エントラント　：MP Racing
カーナンバー　：9
マシン名称　：MP Racing GT-R
ドライバー　：JOE SHINDO・柴田優作・影山正美・井上恵一
大会名称　：スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook
　　第 4 戦 TKU スーパー耐久レース in オートポリス
レース時間　：5 時間
開催地　：オートポリス (大分県)
開催日　：2021.7.31～2021.8.1
天候　：晴れ～曇り (7.31)　雨～晴れ (8.1)
イベント動員数：2,723 人 (7.31)　3,732 人 (8.1)

公式予選 A Dr.　：1’54.724（ST-X クラス 5 位）
公式予選 B Dr.　：1’49.145（ST-X クラス 1 位）
公式予選 (A/B 合算)　：3’43.869（ST-X クラス 5 位）
公式予選 C Dr.　：1’53.732（ST-X クラス 5 位）
公式予選 D Dr.　：1’59.695（ST-X クラス 2 位）

決勝　：総合 /ST-X クラス 3 位
　　(5:02’00.751 / 111 周)

スーパー耐久シリーズ第 4 戦『TKU スーパー耐久レース in オートポリス』が 7 月 31 日から開催された。
前戦富士 24H を終えて約 2 ヶ月。後半戦を迎えたシリーズ戦の舞台は大分県のオートポリス。
阿蘇外輪山の北側に位置するこのサーキットは山の地形を活かした高低差の激しいレイアウトが特徴となっている。
また標高も約 800m とスーパー耐久シリーズ開催サーキットの中では最も高い位置にあるため、大雨や霧といった天候の変化も多く、攻略をさらに難しいものとしている。
MP Racing はこのレースも体制に変更はなく、JOE SHINDO、柴田優作、影山正美、井上恵一の 4 選手がエントリー。
前半 3 戦を終え、これまで MP Racing はとても厳しい戦いを強いられてきた。
その不運を跳ね返すべくチーム全員が一丸となって後半戦最初のレースに挑んだ。

7 月 29 日 (木)〜30 日 (金) 専有走行

好天に恵まれた第 4 戦初日。15 時 15 分から行われた専有走行に出走した。
まずは柴田がチェックを兼ねてコースイン。その後 JOE が精力的に周回を重ねていった。
このセッションは序盤に柴田がマークした 1 分 52 秒 480 がチームベストとなり、ST-X クラス 5 位に終わった。

引き続き快晴の２日目。この日も専有走行が行われた。
10時15分から行われたセッションでは柴田がこのセッション最速となる１分50秒182をマーク。好調ぶりを見せた。
しかし午後に行われたセッションでは JOE が 12 コーナー付近でコースオフからバリアに激突。
JOE に怪我はなく、マシンも回収されたが修復作業に移るため、このセッションでの走行は終了。
1 分 52 秒 868 で ST-X クラス 5 位という結果に留まった。
マシンのダメージは大きいものではなく、メカニックの迅速な作業により修復が完了。予選に向けての準備が整った。

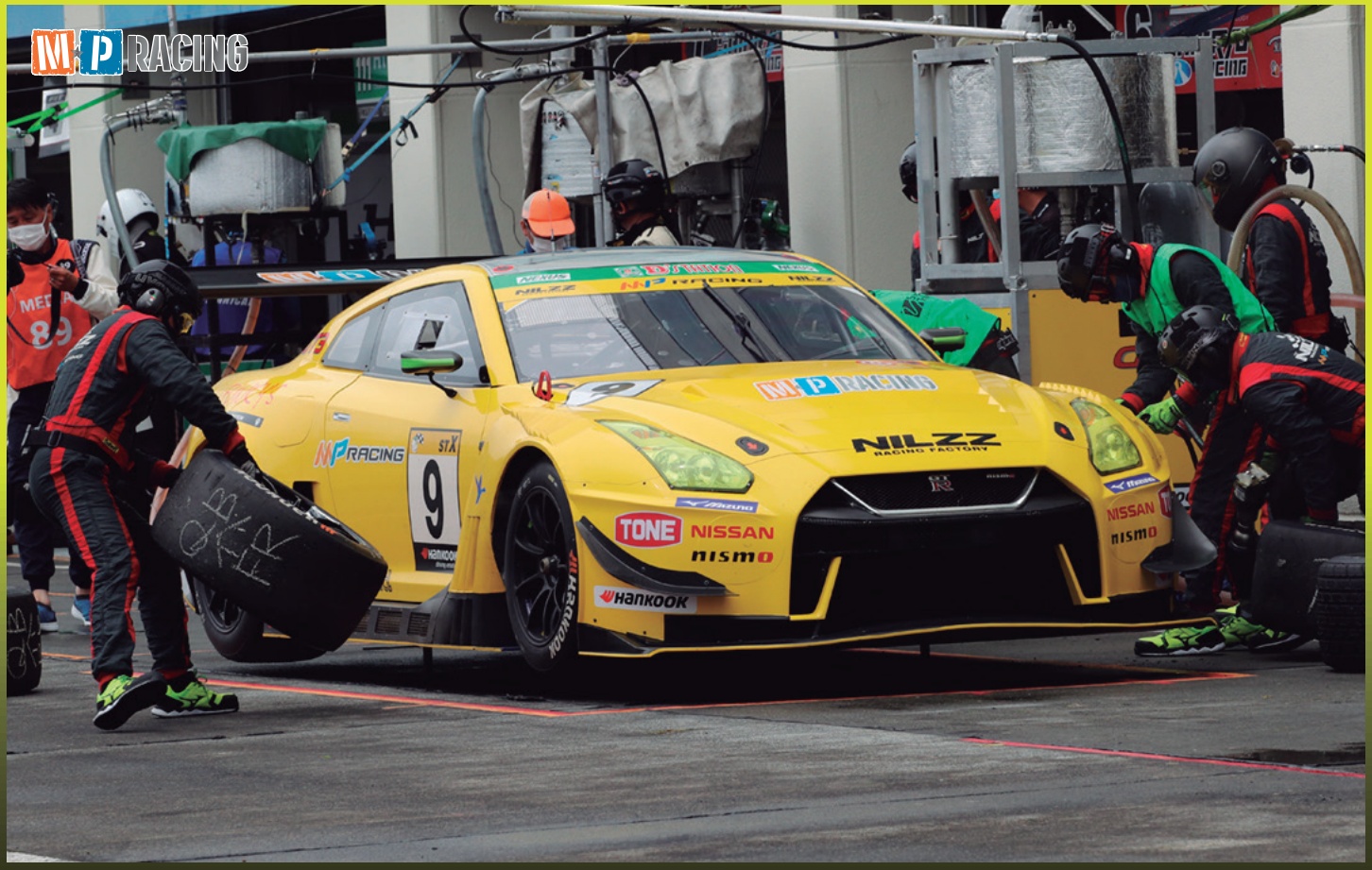
7 月 31 日 (土) 予選

迎えた予選日。この日も好天に恵まれたが照りつける太陽の日差しが強く、ドライバー、メカニック、チームスタッフに対して過酷なコンディションとなっていた。
午前中の FCY 訓練を兼ねたフリー走行を経て、13 時 35 分から公式予選が開始された。
ST-X、ST-1 クラスが対象となるグループ X の A ドライバー予選は 14 時 10 分にコースが開放。
JOE が酷暑の中、タイムアタックに向かった。
JOE は計測 4 周目に自身のベストタイムとなる 1 分 54 秒 724 をマーク。
その後もアタックを続けるもこれ以上タイムを縮めることは叶わず ST-X クラス 5 位。

続いてグループ X の B ドライバー予選。柴田がウォームアップを終えてアタックを開始。
計測 1 周目で 1 分 49 秒 145 をマーク。翌周もアタックを継続するもタイム短縮は果たせず予選アタックを終了。
しかしこのセッションで柴田のタイムを破る者は現れず、B ドライバー予選は総合首位という見事な結果となった。
合算の結果、決勝レース 3 分 43 秒 869 で ST-X クラス 5 位からのスタートが決定した。
全クラス混走で行われた C、D ドライバー予選は影山と井上が決勝レースに向けての準備も兼ねて出走。
影山が 1 分 53 秒 732 で ST-X クラス 5 位、井上が 1 分 59 秒 695 で 4 位とそれぞれが基準タイムをクリアした。

8 月 1 日 (日) 決勝

これまでの好天から一転、この日のオートポリスは雨が降っていた。
ウエットコンディションの中、1 周のフォーメーションラップを経て、5 時間のレースがスタートした。
スタートドライバーは柴田。スタートから間もない 3 周目、コース上には霧が立ち込め、視界不良のためセーフティーカー (SC) が導入される。7 周目にコンディションが回復しレースは再開するも、9 周目にまたも霧によって SC が導入。



12 周を終えたところで赤旗が提示されレースは一時中断となる。
今季より赤旗時の運用に関する規則に変更があり、この赤旗が提示された時点でジェントルマンドライバーの最低乗車時間とドライバー交代を伴う義務ピットストップ回数が除外されることになる。
約 1 時間 6 分の中断の後、12 時 45 分からレースが再開。
しかしこの時点で天気予報とは大きく異なっていて、このフォーメーションラップの間にドライタイヤへの交換を行うチームも現れたほどに、路面状況は急速にドライコンディションへと向かっていった。
MP Racing は 18 周を終えたところでピットイン。
ドライバーは変えずにドライタイヤへの交換と給油を行いコースに復帰した。
最大乗車時間もしくは燃料が尽きるまでのロングランを行う柴田。しかし先のピットストップの後、ピットからの無線が伝わらないトラブルが発生。サインボードで伝達するが細かな情報が伝えられないため、限られた情報だけで周回しなければならず、回復した天候は暑さを増してドライバーを苦しめる過酷なコンディションでのドライブとなった柴田。長いスティントを終え、76 周を終えた柴田がピットイン。
タイヤ交換と給油、そして無線機の対策を行い、ドライバーは影山に交代した。
影山がコースに復帰。しかし無線機のトラブルは解消されず、影山もピットからの情報を受け取れない中でのドライブとなってしまった。またドリンクボトルの水も尽きてしまい、この暑い中でのドライブはさらに過酷なものとなった。

NILZZ RACING FACTORY nismo MOTUL ENDLESS hankook driving emotion CURIOSITY Ltd. SUMMIT CARS Mizuno

しかしその中でも影山はチェッカーまで MP Racing GT-R を導き、ST-X クラス 4 位のチェッカーフラッグを受けた。
その後、決勝レース後の車検にて車両規定違反があったとして上位入賞車 1 台に対し失格の裁定が下され、MP Racing はこれにより順位が繰り上がり第 4 戦の正式結果は 3 位という結果になった。

これまでの 3 戦は非常に厳しい結果に終わってしまい、我々が持つ本来の強さをお見せできないレースが続いてしまいました。しかし今回のレースで結果を残せたことはとても嬉しく、鈴鹿と岡山に向けてとても良い方向に向かっていけると思っています。
引き続き皆様のご声援、ご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

NILZZ RACING FACTORY nismo MOTUL ENDLESS HANKOOK driving emotion CURIOSITY Ltd. SUMMIT CARS MIZUNO